

## 保護者アンケート結果

### <全般考察>

1学期同様、ほとんどの項目でA・Bをあわせた肯定的評価の割合が高かった。概ね大明小学校の教育が保護者に理解され、評価されているとあってよいと考える。とくに設問1～8の学校教育や学校経営に対する結果からは、1学期に比べてCやDの評価が減っていることが分かる。ただ、自由記述に関しては、アンケートに「C・D評価をつけた場合には、その理由を書いてほしい」という一文を加えたため、否定的評価に対する意見が多く出てしまったことが残念であった。今後、自由記述の内容については、観点を示すなどの検討が必要である。また、設問9、設問10の保護者から見た学校生活における子どもの様子では、いずれも肯定的評価が高く、子どもが学校に行くことを楽しみ心豊かに生活している様子が伺える一方、設問11～15の家庭や地域における子どもの様子では、1学期同様C評価が高くでている。特に設問11「子どもは早寝・早起き・朝ごはんの基本的な生活習慣が身についている。」では、C評価が増えたことが気付きである。家庭や地域の中での子どもたちの様子には、社会の構造的変化の影響も大きい、子どもたちの成長を共に担う者として家庭や地域との一層の連携が不可欠であろう。

### <学校教育・学校経営・学校運営について（設問1～8）>

#### 考察1

2学期の後半でのアンケートということで、保護者と担任との関係も深まり、また運動会・文化発表会といった学校行事も行われた後ということもあって、数値からは保護者が本校の教育の方針や特徴を理解し、概ね満足していることが伺われる。設問5「学校は子どもについての悩みを相談しやすい。」設問6「学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応してくれる。」については、1学期に比べてC評価が減ったことがわかる。1学期の学校評価の結果を受けて改善に取り組み、教職員が子どもの学校や家庭での生活状況の把握に努め、保護者の声に誠実に対応している結果が出ていると思われる。しかし、どの項目にも少数ではあるが、D評価もつけられており、自由記述欄には厳しい意見も見られる。これらの意見については、きちんと分析し、改善につなげていきたい。

#### 今後の改善策

設問3～6については、あらためて教職員と保護者は、ともに子どもの成長を支えるパートナーであるという意識を忘れないで、お互いに何でも言い合える関係を構築することがまず重要である。次に、担任が一人で対応に窮するといったことがないように、学校体制としてこれまで実施してきた児童の情報交換や支援会議の活用、すべての職員がすべての子どもに関わるといったパートナーシップやチームワークを一層強めていきたい。

#### 考察2

設問7「学校からの文書や連絡は適切である」設問8「学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している」については、肯定的評価が多いものの、1学期に比べてC評価が増えてしまった。自由記述には、ホームページの充実や行事予定の早く正確な情報提供、また災害時の引渡しに関する要望などが上がっている。いずれも、学校として少し注意をしたり工夫をしたりすれば改善できるものである。忙しく限られた時間の中ではあるが、取り組んでいきたい。

#### 今後の改善策

学校行事のために休みを取る保護者にとって、早めの正確な情報提供は不可欠である。昨年度の通知に手を加えて出すことも多いが、必ず複数の目で確認して配布することを徹底する。ホームページの活用については、今後ネットワーク整備が終わったところで、情報主任を中心に掲載内容や時期、担当などについて再度確認していく。災害時の児童引渡しに関しては、全保護者にマニュアルが配布されているが、内容の説明は十分とは言い切れない。早速学校ホー

ムページに掲載するとともに、児童に対しては、保健や図書、給食などの学級指導と同様、安全指導としてそれぞれのクラスで指導するような資料を提供し、防災計画に基づいてきちんと取り組んでいきたい。子どもを通して家庭への意識付けも図っていきたい。

## <子どもの様子について（設問9～14）>

### 考察3

子どもの様子についてのアンケート結果も、ほとんどの項目でA・Bをあわせた肯定的評価の割合が高かった。しかし、設問11「子どもは早寝・早起き・朝ごはんの基本的生活習慣が身につけている」に関しては、C評価が11人と高い割合になった。本校では学校保健目標としてすべての学年で取り組んでいる項目であるだけに、この結果は残念である。生活時間帯が夜型に変わっていること、子どもたちも習い事の時間が遅いことなどが理由に挙げられている。それぞれの家庭が意識して取り組む必要があるだろう。

#### 今後の改善策

学年PTA保健目標での取り組みを、学年PTAを中心に各家庭に浸透させる取り組みの工夫、年に2回行なわれている学校保健委員会への出席状況を改善していく取り組みなど、今後とも家庭と連携しながら、さまざまな機会を捉えて情報発信していく。

子ども自身による意識化も大事である。児童会活動としての保健委員会による保健集会の活用、学級指導の時間の中で知識と生活を結び付けた形での指導を一層推し進めていく。

### 考察4

設問14「子どもは家庭や地域の中であいさつをしている。」については、ここ数年評価が低い項目である。今回もA評価が12、C評価が9とほぼ同じくらいの数値となった。児童会活動としてのあいさつ運動は今年度も継続しており、子どもたちは、あいさつをすること、されることの意義はきちんと理解している。そして、あいさつ当番になったときなどはとても張り切っているのだが、あいさつ運動は時間的にも空間的にもなかなか広がっていかないようである。あいさつすることの意味を知識としては知っているが、行動としてできていない子どもたちの実態がある。登校時も元気にあいさつをする子としない子の差がでている。自由記述にもたくさんの意見が出され、年齢のせい・不審者などの社会環境のせい・家庭での躾の問題などが原因として挙げられている。

#### 今後の改善策

あいさつ運動がその場のそのときだけの活動として終わらないようにするため、取り組み方も考えていく必要がある。ここまで改善策として、家庭向けのあいさつ標語の取り組みや、交通安全パトロールの方々へ「児童のあいさつ運動への協力のよびかけ」などを行ってきた。交通安全ボランティアの方々からは子どもたちに対して積極的な声かけがあり、うれしい限りである。また、学校でも教職員のほうから明るく声をかけるようにしている。今後の取り組みとして、通学途上、地域の人たちへのあいさつを、児童会を中心として取り組むことを考えていく。さらに、PTAとして、大人からの働きかけが大切であることも伝えていく。家庭こそが第一義的に重要な教育の場であると考えます。

## <全体を通して>

### 考察5

登下校時の見守りをしてくださっているボランティア（交通安全パトロールのみなさん）の存在に気づき、感謝している意見が上がってきたのはとてもうれしいことである。地域との連携のひとつの仕組みとして、とても効果的に機能していて、保護者にとっては心強い存在である。登下校時の児童の安全確保については、保護者の心配と関心が大きい項目である。本年度、PTA安全指導部が中心となって、交通安全の看板を作成し、通学路に設置する計画を立てて取り組みを進めている。行政任せでなく、保護者としてできることをやっていくという想いが広がっていくとよいと思う。